

令和4年度 山梨県立富士見支援学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	児童生徒たちの病状に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育における学習空白を補完するとともに、社会の中で人と関わりながら生きていくための力を育む
-----------	---

山梨県立富士見支援学校校長 小倉正一

本年度の重点目標	1 児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。
	2 健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。
	3 病弱教育に関する専門性の充実を図り、信頼される学校づくりを行う。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価

本年度の重点目標		
番号	評価項目	具体的方策 方策の評価指標
1	児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。	<p>個別の指導計画に基づいた学習の状況や結果を適切に評価し、教科間でのカリキュラムマネジメントを行いながら指導の改善を図る。</p> <p>児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)</p> <p>ICT教材の活用や体験的活動など、指導法を工夫することにより、わかる喜びを実感できる授業を行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。</p>
2	健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、自立を目指す態度を育成する。	<p>教育課程に児童生徒の心身の状態を考慮した系統的・体系的なキャリア教育を位置づけ、その充実を図る。</p> <p>児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)</p> <p>道徳教育や保健教育と関連させ学校生活全体を通して、自他を大切にすることを育て、基本的な生活習慣を身につけさせる。</p>
3	病弱教育に関する専門性の充実を図り、信頼される学校づくりを行う。	<p>積極的な情報発信を行い、病弱教育への理解と啓発に努めるとともに、関係機関との連携を充実させる。センター的機能を発揮して、高校生を含む地域の児童生徒を支援する。</p> <p>児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)</p> <p>専門性の向上、研究・研修の充実を図る。</p>
4	多忙化の改善を図り、効率的な学校運営を目指していく。	<p>児童生徒・保護者・関係機関等との対応及び会議の延長における時間外勤務の振り替えを適切に行うことにより、教職員の多忙化・多忙感の解消に努める。また、学校閉庁日を増やす。</p> <p>教職員アンケートによる検証</p>

年度末評価(2月1日現在)

自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
<p>・個別の指導計画については、本年度も学期毎にPDCA サイクルで検証を重ね、指導の改善を図ることができた。また、必要に応じて丁寧な情報交換を行うことで教科横断的な指導の向上を図ることができた。</p> <p>・各授業において、電子教科書の利用や配備された端末及びICT機器の利用、アプリの活用などが適切に行われ、学習内容を理解するための選択肢の一つとなってきた。また、効果的な利用の仕方考え共有しながら利用することができた。</p> <p>・保護者アンケートでは、児童生徒の評価に比べ、満足度の低い傾向が見られた。</p>	A	<p>・PDCAサイクルによる指導改善を徹底させながら、質の高い教科横断的な学習指導を実施していく。また、児童生徒の実態に合った確かな授業計画を検討、実施する。</p> <p>・ICT教材や機器の活用が授業内容の理解を深めるための一つのツールとなったが、その効果的な利用に関する事例の蓄積や弊害についても整理し理解した上で利用していく必要がある。体験的な活動も含め、教員間で知識や情報、活用方法などを共有し研鑽を深めていく。</p>
<p>・各児童生徒の実態把握に必要なタイミングで丁寧に行い、その都度、身につけさせたい力を教師間で確認し、進路指導年間計画も参考にしながら、支援方法を検討・実施できた。</p> <p>・中学部2年生以下の生徒や保護者に対して必要に応じて高校等の情報を提供したり、学校見学を促したりするなど、進路を含めたキャリア教育の意識を高められた。</p> <p>・保健体育の授業や特別活動を通して心身の状況の把握や課題に向けた取組ができた。また、登校時の健康管理を通して、担任と協力して保健指導を行うことができた。Formsで健康管理を行うことができた。</p> <p>・感染予防対策機器を充実させながら、コロナ感染レベルに合わせて予防対策を強化した。</p>	A	<p>・来年度も各児童生徒の的確な実態把握を行うと共に、教師間の共通理解を丁寧に行い、適切な支援を検討する。</p> <p>・職場体験や学校(前籍校や進路希望先の学校)見学など、児童生徒の実態に応じて、年度の早い段階で計画し保護者も含めたキャリア教育の意識を高められるようにする。</p> <p>・コロナ感染症に関連し、校外での学習等が実施できないことも想定して、学習内容を計画し更にキャリア教育の充実を図れるようにする。</p> <p>・医療や保護者と密に連携し、心身の状況を把握・調整しながら行う学習活動を今後も計画的にさらなる充実を図る。</p>
<p>・中央病院医療関係者向け、中央病院との医療連携病院関係者向け、保護者向けにセンター的機能説明資料(リーフレット)を作成し、医師、看護師等関係機関に説明し、配付した。今年度、中央病院小児科を中心とする連携で5ケース、中央病院との医療連携病院との連携で6ケースに対応した。学校への支援に関わっては、理解や具体的な対応の在り方等の支援に加え、研修的な支援も行い、校内体制づくりも支えた。</p> <p>・病弱専門部連携会議では、講演会や情報交換会を通して、会員のネットワーク形成も目的として運営し、結果、高い評価を得ることができた。</p> <p>・今年も夏季休業中の病弱専門部連携会議での講演会を案内した。新たに事例検討会、児童生徒の理解や対応に関わる講演会を企画、実施し、本校の教員の専門性の向上に繋がるよう努めた。</p>	A	<p>・依頼された内容は困難ケースが多い中で、関係機関と連携し、改善の可能性を探りながら支援を進めた。多様なニーズに応えられるよう、専門家の助言を受けられる機会は必要であるとする。今後は民間医療機関との連携も強化していく。</p> <p>・会員個々のニーズが多様化する中で、来年度も助言者の協力をいただきながら、内容を充実させていく。地教委、県教委と連携し、個々のケース対応はセンター的機能に繋げていく。</p> <p>・病弱教育に関する研修会の機会は少ない。今後アンテナを高くして、情報収集や情報提供に努める。事例検討会は、助言者を確保する中で、来年度も実施の可能性を探っていく。</p>
<p>・時間外勤務を明らかにし、適切に振り替えられるような仕組みづくりをしている。振り替えは、長期休業中にとるケースが多いが、取り替えることができない場合もある。</p> <p>・学校閉庁日を増やしたことで、まとまった休暇をとることができた。</p>	B	<p>・業務量の適切な分散を行う。</p> <p>・時間外勤務の適切な振り替えをすると共に、学校閉庁日の設定を週休日と連続させることでまとまった休みをとりやすくし、年休の取得日数13日以上という目標が達成できるようにする。</p>

学校関係者評価

実施日(令和5年2月17日)	
評価	意見・要望等
3	<p>・コロナ禍であっても学校行事が徐々に実施できるようになったことは望ましい。児童生徒同士のかかわりによる成長・発達の機会が提供されている。教職員の丁寧な実態把握に基づく手厚い教育・支援が行われている。</p> <p>・重点目標が概ね達成されているため、次年度は発展性のある内容に改訂するとよい</p> <p>・児童生徒の声として、学習の遅れや教科学習に対する支援が求められている。実技教科を含む学習環境や内容の工夫が課題である。</p> <p>・ICT活用の難しさを感じると共に、こんないいことがあると保護者に伝えられるとよい。</p> <p>・ICT活用の課題に対する今後の対応策をどのように考えていくか。</p>
4	<p>・どんなに難しい子でも受け入れの可能性を模索し、受け入れる姿勢はとても素晴らしい。</p> <p>・不登校の子どもたちでも来たいと思える取組をされている。</p> <p>・進路選択の際や、「先輩の話聞く機会」が設けられるなど、丁寧な進路指導が行われている。</p> <p>・一人ひとりと向き合って指導ができていると感じる。「相談できる人」に学校の先生を選んだ回答が多く、良い指導が行われていることがわかる。</p> <p>・学校に対する安心感や信頼感をもっている児童生徒の割合が比較的高い様子がうかがえ、日々の教育・支援が丁寧に行われていると捉えられる。</p> <p>・「心配事や悩んでいること」に具体的な支援はどのように行われているか</p> <p>・SNSトラブルについては、前籍校との連携(自己理解、メディアリテラシー等)が必要である。</p>
4	<p>・支援学校の得意技であるいろいろな家庭、いろいろな分野との連携がよくできていると思う。</p> <p>・保護者が子どもの成長や変化を感じられている様子がうかがえる。</p> <p>・児童生徒にとって、地域に彼らの居場所があることや、将来の進路等を考えるにあたって多様な「モデル」を示すことは大切なことである。学校と地域との連携やICT・リモートを活用して、多様な人や職業を知る機会づくりをするとうい。</p> <p>・高校生年齢のサポート課題は何か。</p> <p>・関係機関への丁寧な説明と関係構築に取り組み、連携の充実が促進されている様子がうかがえた。</p> <p>・「地道な広報活動」として、ぜひ児童生徒の学習や成長・発達、支援ニーズも伝えていってほしい。</p> <p>・センター的機能としての役割として通常学校への理解啓発・インクルーシブ教育としての課題の検討と対応が求められる</p> <p>・児童生徒の実態把握として、例えば感覚過敏や身体症状の面から捉えていくことや、定期的なフィードバックによる自己理解と対応能力を本人と共に考えていく機会があるとよい</p>
3	<p>・時間外勤務の適切な振り替えはよい取組だと感じる。</p>

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。